

2025年のスギ・ヒノキ花粉飛散のまとめ

[報告：副会長 沖中 芳彦]

2024年の夏は観測史上一番の猛暑でした。それを反映してか、今シーズンの秋の定点木の観察では、スギは多くの雄花を着けており、2025年のスギ花粉飛散総数を、県内測定機関の平均値として、平年値（直近10年間の平均値）3,200個/cm²に対し、従来どおりの方法（1次回帰）では4,400個/cm²程度、より相関の高い指数関数では5,100個/cm²程度と予測しましたが、実測値はそれらを上回る6,267個/cm²となりました。これは、2023年の6,430個/cm²、2019年の6,288個/cm²に次ぐ3番目の値となります（図1）。飛散開始日は北部の1測定機関で1月5日、中部の1測定機関で1月6日に早々と定義に該当しましたが、例年と比べてあまりに早いため、その後の花粉数の推移を見守っていました。1月17日に東京都が1月8日のスギ花粉飛散開始を発表しましたので、山口県医師会も1月20日に、

1月5日を山口県の飛散開始日とすることを宣言しましたが、寒波の影響もあり花粉飛散は抑制され、結局、多くの測定機関で飛散開始の定義に該当したのは、東部と中部は2月16日、西部は2月14日、北部は2月15日でした。その後も寒い日が続いたため、飛散のピークは3月中旬と遅く、3月12日から14日の3日間で、シーズン全体の約40%が飛散しました。スギ花粉飛散総数の最多は美祢の測定機関で13,020個/cm²、最少は岩国の2,463個/cm²でした（図2）。

一方ヒノキも、飛散総数は3,913個/cm²（平年値1,805個/cm²の2倍以上）と、2023年の4,696個/cm²、2018年の4,150個/cm²に次ぐ、3番目の多さでした（図1）。飛散開始日は3月11日、最多飛散日は3月25～26日でした。最多飛散総数は長門の測定機関の12,300個/cm²、最少は山陽小野田の1,741個/cm²でした（図3）。

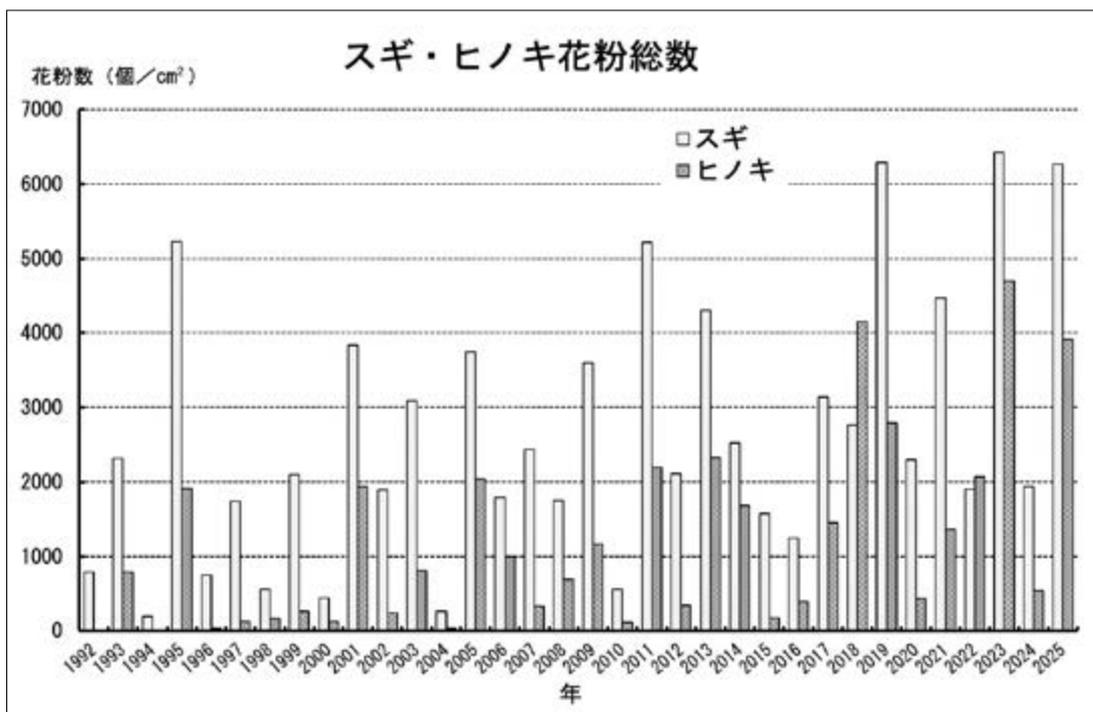


図1 年別スギ・ヒノキ花粉総数 2025 まで

今シーズンの結果により、来シーズンを迎えるにあたってのスギ花粉総数の平年値は3,674個/cm²というとんでもない多さとなりました(図4)。また、ヒノキの今シーズン終了時点での平年値は、2,180個/cm²と、初めて2,000個を超えました。

ところで、飛散開始日は「同一測定施設で1月1日以降にスライドグラス1cm²あたりに花粉が1個以上捕集される日が2日以上続いた場合の最初の日」と定義されています。これまで、飛散開始となると、その後徐々に花粉捕集数が増え、1週間後ころに最初のピークが来るという感覚でした。今シーズンのように、一旦早々と定義に該当したものの、その後1か月以上、1個/cm²/日を超える日がないという状況は、これまで経験したことがありません。「スギ花粉の飛散が始まったのに症状が出ないので、花粉症が治ったのかと思った」と仰って、症状がひどくなって受診された患者さんもおられました。

山口県は今シーズン、20施設で花粉の測定を行いました。これまで、地区によって「飛散開始日」に2週間程度のばらつきがあることも時にはありました。しかし多くの年は、1か所で飛散開始に該当すると、数日以内に県内全域で飛散開始となっていましたので、山口県医師会では、「1施設でも」定義に該当すれば、その日を「山口県の」飛散開始日としています。今シーズンの状況には戸惑いましたが、山口県の飛散開始日につきましては、今後も同様の方針で決定することになると思います。

測定機関の皆様には、今シーズンも長期間にわたる花粉数のカウントを、誠にありがとうございました。引き続きよろしく願い申し上げます。

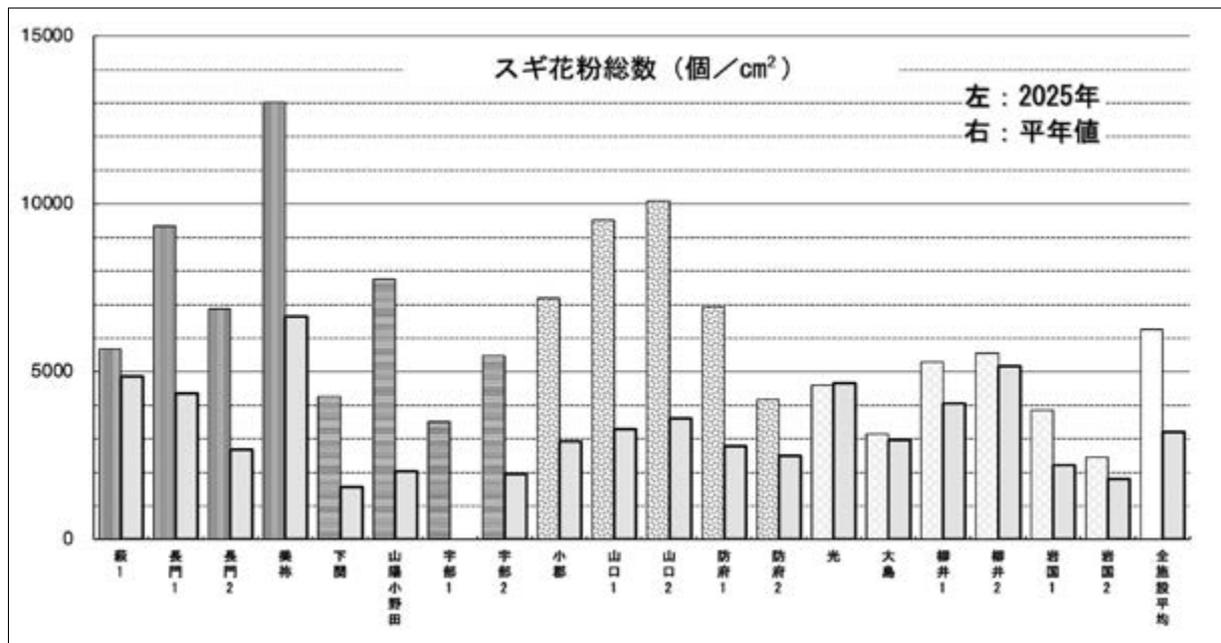


図2 測定機関別スギ花粉総数 2025

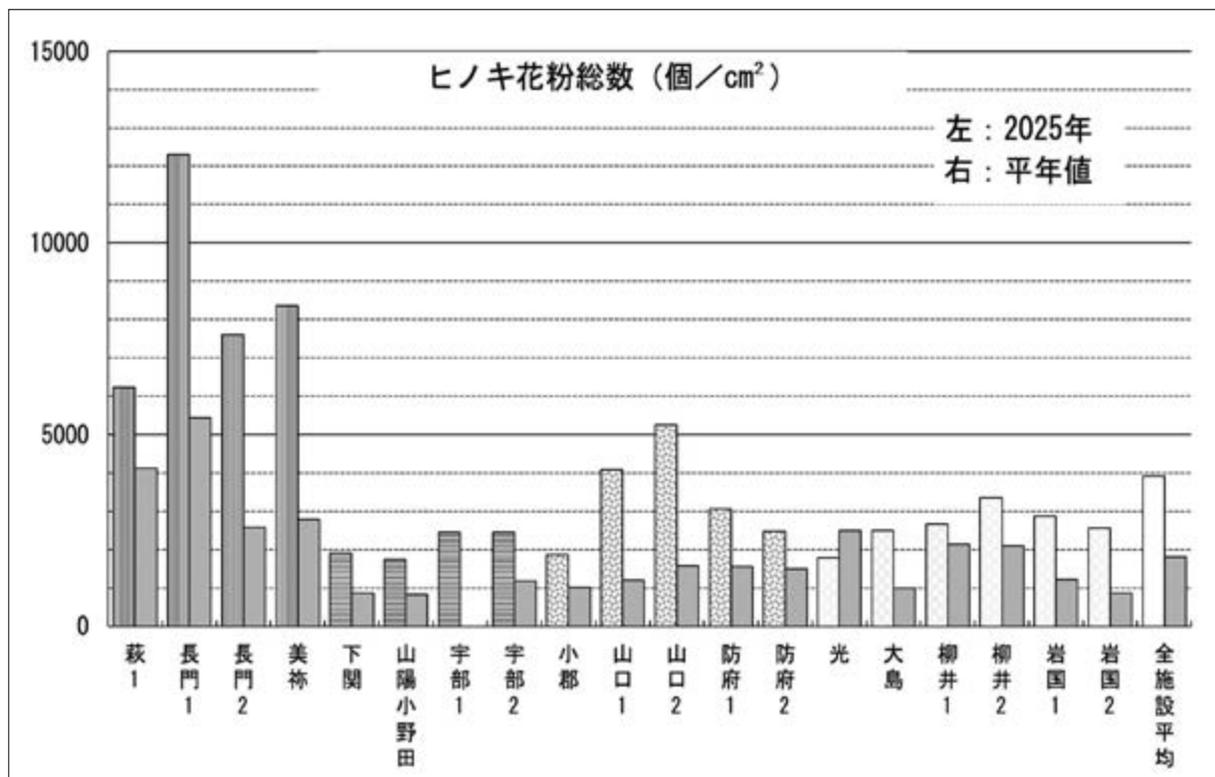


図3 測定機関別ヒノキ花粉総数 2025

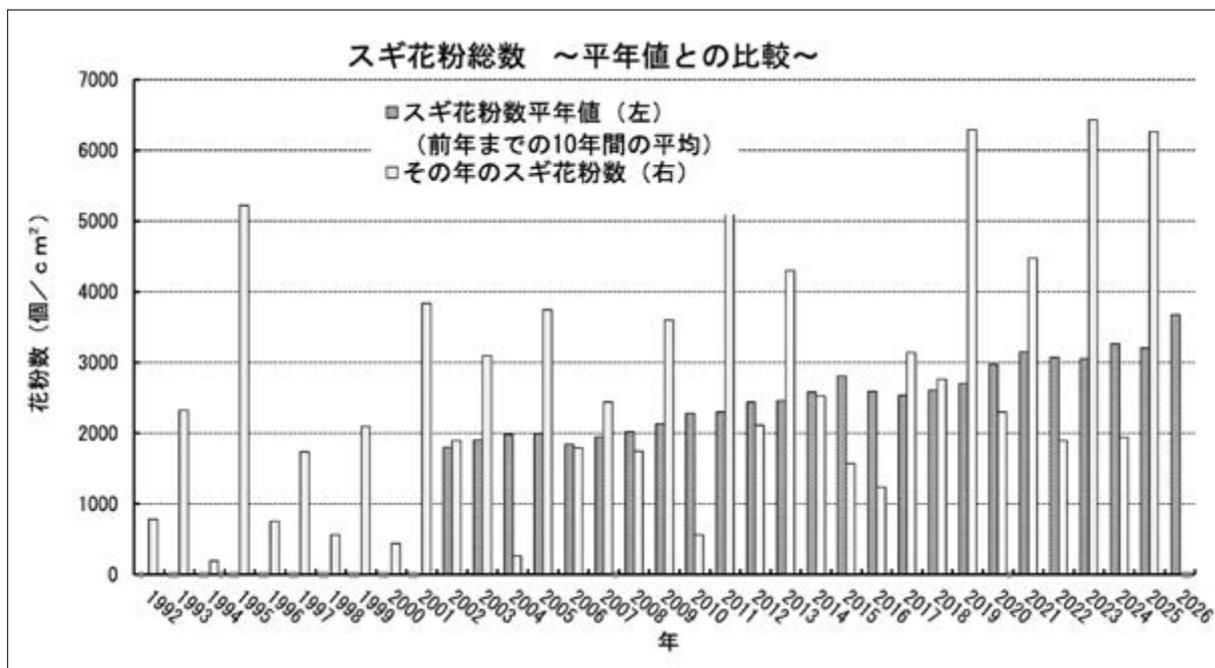


図4 年別スギ花粉総数 (平年値との比較)